

## 「倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案について」の パブリックコメント集約結果

「倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案について」について、「倉敷市パブリックコメント手続要綱（平成21年12月8日告示第683号）」に基づき市民の皆様から広く意見を募集しましたが、その結果は次のとおりです。

### 記

1 意見等の件数 2人 10件

2 御意見の要旨と市の考え方

別紙のとおりです。

3 今後の予定

有識者会議や地方創生等特別委員会など市議会での議論を経て策定します。

4 参考

意見募集期間 平成27年6月10日（水）～7月9日（木）

御意見をお寄せいただきました皆様の御協力に厚くお礼申し上げます。

倉敷市 企画財政局 企画財政部 企画経営室

意見No	いただいた御意見もしくはその概要	市の考え方・対応
1	<p>この機会に、必要性がありながら遅々として前に進めることが出来ていない課題の促進を。</p> <p>例えば倉敷駅周辺のまちづくり、鉄道立体交差、各地域の都市計画道路延伸計画・施策などを、市長が要になって取り組んで欲しい。新しい施策を打ち上げるのは悪いことではないが、その施策をこれまでと同様の人財・組織構造で促進する限り、既に計画して数十年を経た施策を謙虚に見直しつつ一歩ずつ前進させる力を付けなければ、既課題もこの度新規に取り上げられる施策も上手く進まないと思います。市長は、市政促進の実力トップとしてご活躍願いたい。まちづくりこそ市政の根幹となる(今昔を問わない)仕事です。</p> <p>この法律(まち・ひと・しごと創生法:倉敷市で追記)は、地域のことは地域が最も身近に分かっているから地域行政が頑張りなさいと言っている。裏読みすれば、このままでは国家予算が借金まみれで困る。地方が何から何まで国にもたれかかるのではなく、地域のことは地域で出来るようにしなさいと言っている。表裏どちらであるにしても、倉敷市は市長のリーダーシップのもとで「行政の実力」をより一層つけなければならない。遅々として進まない昔からの懸案に市議会も含めて倉敷市一丸となって取り組むことで証明されてゆくのではないのでしょうか。</p> <p>倉敷市の行政実力アップの鍵は市組織の仕事縦割り状態を解消する(各人が融合一体化すること)です。市政課題は一つの課係だけですべて完遂出来るものばかりですか?。一つの係の担当者だけで組織課題が完遂出来ますか?。多数の課係が連携どころか一体になって各々の専門性を発揮して、しかも誰もしないというような空白が出来ないようにすることです。市政の一組織である市議会も市と市民とを市政の観点から融合し、自らも市政テーマ提言者となり、既課題の施策促進支援に汗をかくて欲しい。地方公務員も各専門性において優秀です。国家公務員よりも(国民)市民との距離や接点が近いという恵まれた仕事環境です。市政が先ずはその内部で一体化できれば難題促進と完遂は必ずや早まります。それが行政力(実力)です。</p>	<p>市の考え方・対応</p> <p>この度、国で制定された「まち・ひと・しごと創生法」は、少子高齢化の進展に対応し、人口減少に歯止めをかけ、過度の東京一極集中是正を目指しています。この地方創生は、国と地方にとって最重要課題の一つであります。</p> <p>国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」でも『しごと』と『ひと』の好循環を支える『まち』の活性化」と掲げ、「しごと」と「ひと」の好循環を支えるためには「まち」に活力を取り戻すことが必要としています。まちづくりは「ひと」を呼び込むことと「しごと」を創出することを支える共通基盤であることから、今回の地方創生の観点からも、より一層力を入れていきたいと考えています。</p> <p>地方創生は、取り組む分野や視点が多岐にわたるため、倉敷市が一丸となって取り組むべき課題と認識しています。御提言のとおり、市長のリーダーシップのもとで、倉敷市職員全員が考え、取り組まなければならないと考えています。そのため、昨年11月27日に市長を本部長とし、局長等幹部職員を構成員とする庁内横断的な推進本部を設置しました。</p> <p>倉敷市版総合戦略の策定に当たり、人口やその構成などの現状の分析、将来の推計などの検討資料の作成を行い、倉敷市の強みだけではなく、弱みについても同時に明らかにし、これからの基本的な方向性や具体的な施策について検討しているところです。全職員が目指す方向を共有し、倉敷市の知恵と実行力を発揮することで、この地方創生という大きな課題を克服していきたいと考えています。</p> <p>また、地方創生に関しては、市民の皆さまや市議会をはじめとし、企業や高等教育機関などの多方面からの意見も踏まえながら取り組んでいきます。そのために、今回策定する総合戦略については、若い世代も含めて多くの市民の方に読んでいただき、現状の認識と将来の推計等を知っていただき、関心と理解を深めていただける内容にしたいと考えています。</p>

意見No	いただいた御意見もしくはその概要	市の考え方・対応
1のつづき	<p>倉敷市の市民との接点制度(市のホームページ, 市民提案制度, 市民モニター制度パブリックコメント制度, 市民ふれあいトーク)に感謝しています。回答については, 市政が市民のためにあると感じられる言葉使いに努めてください。それは市政に在る皆さまも, 一般の国民県民市民としての生活を営んでおられるはずですから, 提言者の言葉水準に合わせた回答は出来るはずです。</p> <p>「倉敷駅周辺まちづくり基本方針(素案)と検討資料」は, 市議会を含む市政内で市政のための自らの検討資料として大いに活用してください。調査検討資料は, 倉敷駅周辺の特徴を事実によって現しているものです。まちづくりが「容易ではない」と思われる資料もある。市政がそれを知らずして新たな施策を立案できません, 遂行も出来ません, その反面で, これまでの遅々として進まない原因も推測できるものとなっている。組織縦横大いに議論してください。その段階を踏むことによって自ずと市政の一体化が得られると思います。公職者がそれを担って地域に出て市民と接した場合に, より自信と裏付けを持って話合等に参加できると思います。</p> <p>新しい法律(まち・ひと・しごと創生法)が出来て, その法律に則って倉敷市で新しい名称の会議組織が出来て, これから施策議論の船出だと思えます。新しい会合組織を作れば, 既存の会合組織とか局部課係組織とかの関連をどの様にするのか, メンバー編成はどうか等, 市政内で共通認識された体制となっていないといけません。共通認識されていますか?。しっかりした地固めをしないままにその上に建物を建てたら建物は直ぐに壊れます。建てた後に補強は利きません。新しい法律(まち・ひと・しごと創生法)が出来て, その法律に則って倉敷市で新しい名称の会議組織が出来て, これから施策議論の船出だと思えます。新しい会合組織を作れば, 既存の会合組織とか局部課係組織とかの関連をどの様にするのか, メンバー編成はどうか等, 市政内で共通認識された体制となっていないといけません。共通認識されていますか?。しっかりした地固めをしないままにその上に建物を建てたら建物は直ぐに壊れます。建てた後に補強は利きません。</p>	<p>市の考え方・対応</p> <p>今後まちづくりも含めて, 倉敷市の総合戦略策定の中で参考にさせていただきます。と思っています。</p>

意見No	いただいた御意見もしくはその概要	市の考え方・対応
2	<p>私は「まち・ひと・しごと創生」という言葉が出た「まち・ひと・しごと創生法」の国の狙いには慎重であるべきだと思っている。</p> <p>近日も新聞・テレビで話題になりました。東京の介護施設はこれからの急激に増加するであろう高齢者に伴う要介護者を受け入れることは出来ないで、高齢者は介護施設環境に余裕のある地方に移住するのがこのまじい。創生法の第一条「東京一極集中を抑制する」ということは、この様な狙いも含まれているわけです。</p> <p>竹下登首相時代にふるさと創生一億円事業が発案されて実行されて、各々一億円を貰った(税金です)市町村は何の定見も無きが如く使い込み後日の地方行政に生きたものは何一つない「国の愚策と地方の使途」として歴史に残っています。我々に全く還元されない税金の無駄使いの最たるものです。</p> <p>その続きがあります。夕張市はふるさと創生どころか市政が事実上崩壊して、市政が悪いと市が壊れるモデルとなってしまいました。しかし、若き中央のエリート官僚が自ら進んで夕張市長になり当初孤軍奮闘ながら市政を立て直しつつある。市政が市民との間に信頼性を持ち得ているか持ち得ていないかの同じ市の両方の事実です。最近の民放テレビで市長が良質な質問者の質問に応じて大いに語っていました。市の規模の問題ではなく、市政の在るべき本質の見本です。勉強してください。</p> <p>倉敷市チボリ公園誘致と廃園については行政としての教訓を多く残しました。再度勉強してください。</p> <p>倉敷市は倉敷市独自に、よりよい市政のために脚下照顧して「まち」づくり「ひと」づくり「しごと」づくりに励んでいただきたい。そのための民活を応用した「見直し総合戦略」だと考えていただきたい。私の言う民活とは倉敷市がよく使うPDCAサイクルに近いのかもしれない。ただし中身が違う。組織単位・個人単位の仕事姿勢、つまり仕事の作り方、仕事の取り組み方、計画通りに進んだかの自己評価、完遂したが狙い通りの成果が現れたかの自己評価であり、それらの善し悪し別にした教訓(善かったらそれを伸ばす、悪かったらその理由を大いに掲げて自分のものとする)を引き続きの仕事課題に活かすことです。その積み重ねが、民間企業組織や其処に働く個人の常なる自己啓発であり、日本の企業の維持発展の基盤です。「企業は人なり」とか、「人材にあらず人財なり」というものです。</p>	<p>地方創生は、地方の自立につながるよう、地方自らが考え、取り組むことが重要と考えています。本市の将来にとって何が重要で必要かを、費用対効果の点も併せて検討していきます。</p> <p>総合戦略策定に当たっては、数値目標等も同時に設定することになっていますので、策定後はその数値目標等を用いて、進捗状況を毎年検証し、必要に応じて総合戦略を見直していく予定にしています。</p>

意見No	いただいた御意見もしくはその概要	市の考え方・対応
3	<p>「倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略(骨子案)」の「Ⅰ. 策定姿勢」の「●取組体制」に本部設置とあるが。          誰が本部長ですか？有識者会議とあるが議長は誰ですか？委員は産業界・教育機関・金融機関・労働団体・メディア等とありますが、各界の代表者ですか？会議運営には事務局として市の組織の人は出席しますか？          私の経験からすると、長によりまた事務局により、会議出发点から何をどの様な観点で議論するのか、つまり会議の性格でもめることがある。その様なことがないようにしっかりと根回ししておくこと。またはそのこと自体が会議の初期議題であるならば、それはそれで非常に良いことです。          説明ばかりで議論がない会議にならないようにすること。          委員が発言しないのはいけないことなので、自発的に発言しない委員には強制的に発言を求めること。          会議は必ず当日の結論や次回までの宿題や次回の議題予定を確認して終えること。          次回が始まる時には前回の確認、宿題の回答を議題としてから本日の議題に入ること。          会議が有意義なものになるかならないかは、事務局や議長(委員長)次第です。</p>	<p>倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部の本部長は、倉敷市長です。          また、有識者会議の構成員は現在選定中ですが、事務局については市の職員になります。          幅広い立場の有識者の方から貴重な御意見をより多くいただき、有意義な会議になるよう、いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p>
4	<p>「倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略(骨子案)」の「Ⅱ. 策定の検討・実行に当たっての方針」の「●倉敷市ならではの強み(個性と魅力)を最大に生かす」とあるが。          そこに羅列されるすべての◇は倉敷の強みであるかも知れないが、他人がどの様に思うか構わない自慢話であるかも知れない。自画自賛であるかも知れない。          一般的に行政の仕事というのは市や市民にとって不可欠なもの及び又は既に問題となっていることについて優先すべきであって、それに全く触れることなく、即自慢話から始めることには賛成できない。行政は倉敷を自慢する中にあっても、内心では自らの弱点を克服するという冷静さが求められます。          また◇の中には強みなのだろうかと疑問さえ懐くものもある。          そこで「●倉敷市ならではの強み(個性と魅力)を最大に生かす」という項目を掲げるのであれば、同時に「●倉敷市ならではの弱みを自認・自覚する」という、市政としては頭の痛いことを持ち出す、誘導することが大切です。</p>	<p>全国の多くの自治体が地方創生に関する総合戦略を策定する見込みと伺っています。その中で、倉敷らしさとは何か、倉敷に住んでみたい、倉敷に住み続けたいと思っていただけるためにはどうすればよいか、という視点で検討した結果、本市が持つ強みをより生かしていくという方向で総合戦略を策定しようと考えています。          総合戦略の構成上は、強みを柱としていますが、補わなければならない点についても必要に応じて、取り組んでいきたいと考えています。</p>
5	<p>「●人口減少の抑制に留めることなく、世代を超えて、倉敷で暮らし続けたい、暮らしてみたいと言われる取組を行う」とあるが。          その方針に賛成します。ただし「人口減少抑制」は、かけ声だけで結構です。諸施策の結果としてその様になれば良いのです。</p>	<p>結婚・出産や住居などは、個人の選択の自由ですので、その点に配慮しながら、倉敷市は結婚等に関する希望を阻害している要因を除去できる環境を整えていきたいと考えています。</p>

意見No	いただいた御意見もしくはその概要	市の考え方・対応
6	<p>「倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略(骨子案)」の「Ⅲ. 今後の基本目標と基本的方向」の「●新たな取組への挑戦と既存の取組の更なるブラッシュアップ」とあり、「①働く場を創る倉敷②ひとを呼びこむ倉敷③結婚・出産・子育ての希望をかなえる倉敷④安心な暮らしを守り、地域をつなぐ倉敷」とあり、「基本的方向……(数値目標案)」とあるが、ここで総合戦略の各内容が少し見えてきている。しかし、それらに、私の最も強い要望である「必要性がありながら遅々として前に進めることが出来得ていない課題の促進を」がどの様に内在しているのか分かりません。含まれているならば、どの…に含まれているのか市政内で明らかにしていただきたい。</p> <p>「まち」づくりは市政の本業であり、特にハード的には公共事業として市政(民間人は国政、県政、市政を区別しないのが普通です)にしか出来ない。人の集団としてのソフト的にも専門的見地からは市政が指導しなければならない。</p> <p>一方「ひと・しごと」づくりは、その根本は自助努力、個人の自由であり、市政は要望に応えて幅広く調べて支援する立場にある。それに必要な公共施設等の構築は市政がしなければならない。「まち」づくりについては最初から最後まで市政が主であり、「ひと・しごと」づくりについては市政は従だと考えます。</p> <p>「ひと・しごと」は何を支援したら直ぐに効果が出るというものではない、長期的視野を持った、しかも以前から市が面倒を見ている定番的な要件が多くあるはずで、この機会に優先順位を議論しようと言うことでしょうか？それとも見直しでしょうか？そうであればそれでも良い。</p>	<p>今回の総合戦略において、まちづくりに関しては、主に「安心な暮らしを守り、地域をつなぐ倉敷」という基本目標の中の「コンパクトシティの推進と既存ストックのマネジメント強化」という基本的方向で取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>今後、基本目標や基本的方向をより効果的に実現させるという視点等を持って具体的な事業について検討していきます。</p>

意見No	いただいた御意見もしくはその概要	市の考え方・対応
7	<p>「①働く場を創る倉敷②ひとを呼びこむ倉敷③結婚・出産・子育ての希望をかなえる倉敷④安心な暮らしを守り、地域をつなぐ倉敷」という分類になっているが。大元の「まち・ひと・しごと創生」と対応しているかどうかについての異論は無い。私がおっと良い分類を思い付かないからです。分類しないと議論できないと思うからです。しかし、基本にあるのは「ひと」です。「まち」も「しごと」も「ひと」も人や組織がつくり、ひと皆が自他とも認めて納得することです。私は国の狙いとそれを受けた倉敷の狙いが、対象となる国民・市民との間にミスマッチが発生してはならないと思っている。少子高齢化とか東京一極集中とか人口減少とか、良くないとする理由をじっくり考えないといけない。私は、この様な傾向は自然の成り行きだと捉えています。国も倉敷も行政として経済の縮小が良くないと考えているようですが、これまた仕方の無いことです。生産人口が減っても、非生産及び他人の世話を受けなければならない人口構成比が増えても、経済規模不変を維持しようとすれば、生産年齢の人が今よりも心身優秀で、その結果も明白に現れなければならない。その様なことが可能ですか？。私は経済至上主義、拝金主義、物質文明の行き過ぎ、それと同時に宗教・倫理文化（こころの文化）のあからさまな否定・無関心を是正すべきだと思います。こころの豊かさこころの幸福感こころのぞみを保てないといけない。人は誰でも幸せに生活したい。幸せの一番は自身や家族の心身の日々の健康と健康寿命だと思います。それはお金や物の豊かさとは必ずしも一致しません。近年ではむしろ反比例している様で恐怖すら感じます。経済縮小しても良いではないか、ひとがこころに幸せを保って誰に対してと言わなくても「お陰様で」と言う気持ちで生活できれば。</p> <p>一気に具体的な提言に移ります。分類に係わらず、ひとの教育（赤ちゃん教育、幼児教育、学校教育、会社内教育、高齢者教育等）の重要性、医療・医薬の正しい進歩、食物の新鮮性・低加工性・添加物低減が、各◇各・・・に、隠し味の如く含まれる施策となって貰いたい。私は空襲に見舞われている終戦の年に生まれた。祖父母・両親・姉兄の大家族に囲まれて守られて育てられて、小・中・高・大学を経て会社員となり今は無職70歳ですが、私のこれまでの人生と比較して、異時、異年齢比較であるが、現代日本の方が暮らしにくい。都市の戦後と比べてですよ。現在は不健康な物の出回り、品物は粗悪、家の前の道路は粗悪（未舗装、一部側溝無し、袋路）です。生家の前の道路は既に公道で道幅広く子供時代に舗装化（60年前）されていた。</p> <p>「過ぎたるは及ばざるがごとし」と「倉敷のまちは他の町の数十年前よりも生活するにおいてのまちとしては遅れている」と感じている。</p>	<p>施策の検討・実行に当たったの方針で、倉敷市の強みを生かすとともに、地方創生を単なる人口減少の抑制といった数合わせではなく、倉敷に住んでいる人が暮らし続けたい、または倉敷に住んでいない人も倉敷で暮らしてみたいと思われるということを掲げています。「ひとを呼びこむ倉敷」の中の基本的方向にある「豊かな自然と伝統文化の継承」や、「安心な暮らしを守り、地域をつなぐ倉敷」の中の基本的方向にある「健康寿命の延伸」や「地域を誇りに思い、地域を支えたいと思う人材育成」などで、市民の皆さまがより健康で長生きできるように、また自然や文化を尊ぶ、こころの教育にも取り組んでいき、単に経済的な観点のみで倉敷市を選んでいただくということではなく、内面的なものなども含めて暮らし続けたい、暮らしてみたいと思われる倉敷市を目指していきます。</p>
8	<p>人口の現状分析 これはこれで重要であろう。なぜなら、対策を取らなければこのようになるであろう。その結果、経済は渋滞し、税収が減少し、確実に行政サービスが低下する。</p>	<p>微増状態が続いているこの機を逃すことなく取り組みを推し進め、いづれ倉敷市にも到来する人口減少の局面を少しでも遅らせ、さらにその度合いもより緩やかになるように取り組んでいくことで、行政サービスの低下の影響を抑えていきたいと考えています。</p>

意見No	いただいた御意見もしくはその概要	市の考え方・対応
9	<p>人口の将来展望            将来の人口目標を設定し、施策をとるのが好ましい。なにも施策をとらなければ、人口の推移はこのようになるかもしれない。しかし、有効な施策をとれば、倉敷市の人口も大幅に増加する可能性がある。なぜなら、日本全国有効な施策を取っているとは思えないからである。アイデア一つで、世の中はガラッと変わる。今がチャンスである。その施策のヒントは、テレビで放送している、ガイアの夜明けやカンブリア宮殿なんかにあると思う。物を作るとこの工夫、それを販売する工夫、地産地消などが、いいヒントになるのではないかと。(1)地域連携の推進とある、これは、必要ではあるが病院などを倉敷中央病院に集中させると、倉敷市の住民サービスの低下にもつながりかねない。慎重に検討する必要がある。</p>	<p>倉敷市が持つ強みを生かしながら、現状の見通しより高い人口目標を掲げ、それが達成できるように各施策に取り組んでいきたいと考えています。            地域連携の推進については、本市の住民サービスにも留意しながら、高梁川流域圏域全体での総合力向上を目指していきます。</p>
10	<p>策定姿勢の中の取り組み体制の中に産業界、教育機関、金融機関、労働団体、メディア等とあるが、これらは既得権益者であり、一番重要な市民が抜けている。市民の意見のパブリックコメントでは、物足りない。既得権益者では、有益なアイデアは出ないであろう。自分たちの利益を最優先に考えるからである。対策の例として、子ども一人が生まれれば、どれだけの経済効果が生まれるか考え、補助金を出す(100万円でもOK)のがいい。地産地消などで、頑張っている人たちには、補助金を出すなど、施策はいくらでもある。</p>	<p>市民の皆さまからの意見募集については、有識者会議への「市民代表」といった特定の方から伺うのではなく、多くの方から伺えるようにパブリックコメントによる意見募集としています。施策の御提案も含めて、いただいた御意見は、今後の参考にさせていただきます。</p>



# パブリックコメント要約版

<b>1 案件名</b>
倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案について
<b>2 閲覧及び募集期間</b>
平成27年6月10日(水)～平成27年7月9日(木)
<b>3 趣旨</b>
人口減少、少子高齢化社会にあっても地域を活性化し、持続可能な社会を形成するための基本的な方向等を定める「倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するにあたって、市民の皆様の御意見を募集します。
<b>4 資料閲覧場所</b>
・企画経営室 ・情報公開室 ・児島・玉島・水島の各支所総務課、庄・茶屋町・船穂の各支所、真備支所市民課庶務係
<b>5 提出方法</b>
(1)窓口への提出 ・提出先 上記「4 資料閲覧場所」まで ・提出時間 土曜・日曜を除く8時30分～17時15分 (2)郵送 ・郵送先 〒710-8565 倉敷市西中新田640番地 企画経営室 7月9日必着 (3) F A X : 086-426-5131 (4) Eメール: plnpol@city.kurashiki.okayama.jp
<b>6 問合せ先</b>
企画財政局 企画財政部 企画経営室 〒710-8565 倉敷市西中新田640番地 本庁4階 :086-426-3055 FAX:086-426-5131 アドレス: plnpol@city.kurashiki.okayama.jp

# 倉敷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（骨子案）

人口の現状と将来の姿を示し、人口問題に関する市民の基本認識の共有を目指すとともに、今後、倉敷市の目指すべき方向と人口の将来展望を提示

## 倉敷市の人口の現状分析

### (1) 倉敷市の人口は微増状態

(ただし65歳以上の高齢者が増加する一方、生産年齢人口(15～64歳)は減少)  
人口の自然動態(出生・死亡)について

- 倉敷市の自然動態は、出生数が死亡数を上回る自然増の状態が続いているが、平成13年頃からその差は減少し、現在ではわずかに上回っている。
- 合計特殊出生率は1.61(平成25年)と全国の1.43に比べて高いが、国民希望出生率1.8を下回っている。

国民希望出生率: 独身男女の希望子ども数や夫婦の予定子ども数など、国立社会保障・人口問題研究所が平成22年に行った「出生動向基本調査」を基に、結婚や出産に関する国民の希望が実現した場合に想定されると国が試算した出生率

人口の社会動態(転入・転出)について

- 平成16年より転入超過(リーマンショック時は転出超過)。年齢別では20歳代の転入超過割合が非常に大きい。
- 地域別では3大都市圏に対しては全て転出超過であり、とりわけ東京圏への転出超過が大きい。

### (2) やがて人口減少の局面へ

倉敷市人口(市独自推計)

平成26年現在 / 483,526人

平成31年(ピーク時) / 485,812人    平成52年 / 472,170人

### (3) 人口減少が及ぼす影響

- 年少人口の減少は比較的少ないが、老年人口増加と生産年齢人口減少により経済活動が停滞し、行政サービスが低下

## 人口の将来展望(平成52年)・・・将来の人口目標を今後設定

楽しく子育てできていると感じている人は増加

平成21年 / 31.3%    平成25年 / 43.9%へ

3つの基本的視点を持って取り組む

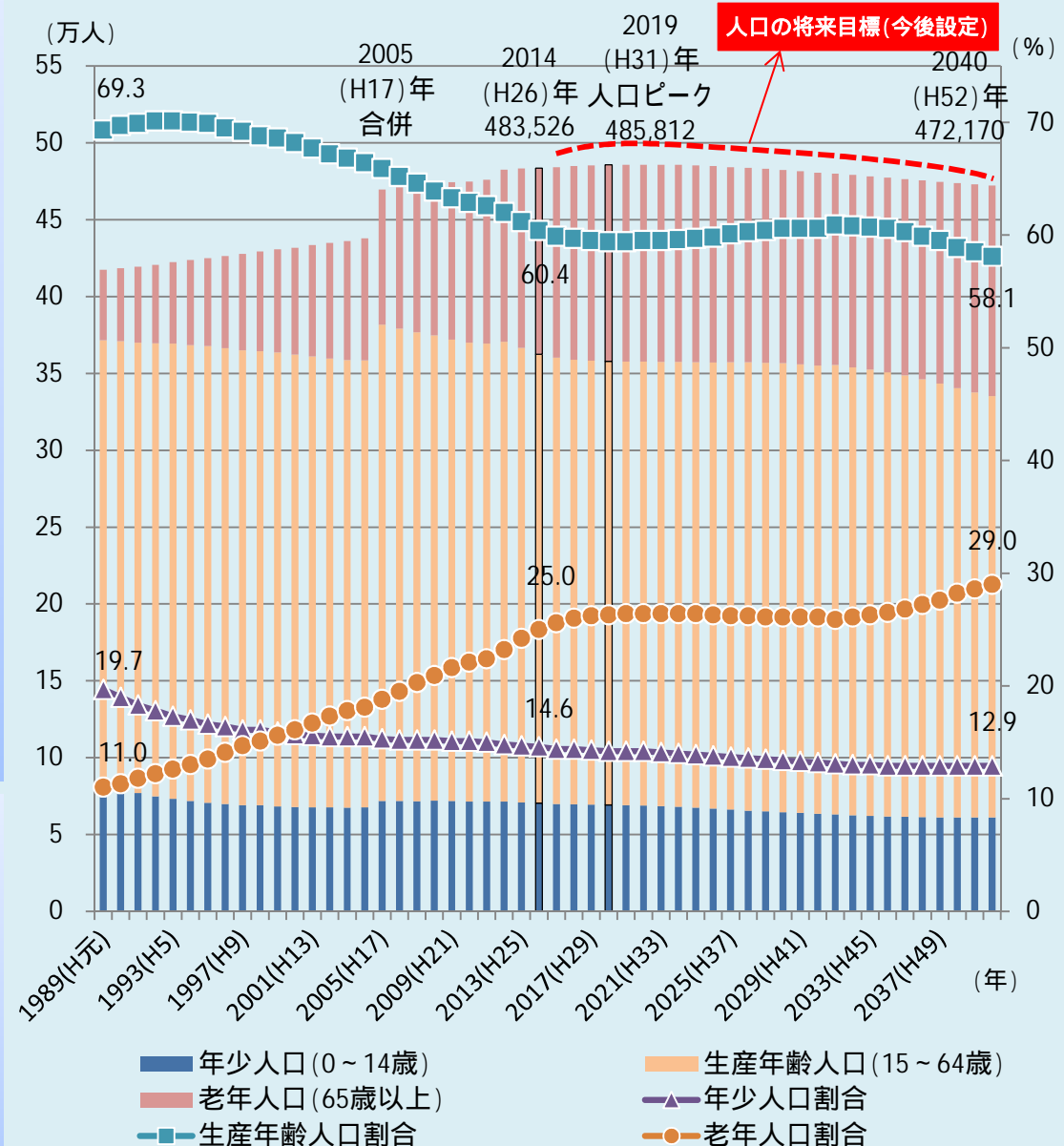
**ア) 人口の自然増に向けて**・・・「子育てするなら倉敷でと言われるまち」の実現  
・・・「高齢者が健康で、生涯現役で暮らせるまち」の実現

**イ) 人口の社会増に向けて**・・・「地域経済が元気で、人が集まるまち」の実現

**ウ) 地域連携の推進**・・・高梁川流域連携中枢都市圏構想の推進

人口微増状態の今、機を逃すことなく将来の人口減少のスピードに歯止めをかけるための施策に取り組む。

## 倉敷市の人口推移と見通し



(出典) 2014(平成26)年までは、倉敷市統計書より、  
2015(平成27)年以降は、倉敷市独自の将来推計人口

# 倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略<平成27～31年度> (骨子案)

～ 未来の市民・未来の倉敷市のために～

## 策定姿勢

倉敷市第六次総合計画(平成23～32年度)を踏まえて

「自然の恵みとひとの豊かさで個性きらめく倉敷」実現のために

### 取組体制

- 倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部設置
- 産業界・教育機関・金融機関・労働団体・メディア等を構成員とする有識者会議の開催や、パブリックコメントを実施
- 数値目標を設定することで客観的に検証可能なPDCAサイクルを構築

## 倉敷市第六次総合計画・構想実現計画

人口の将来展望を踏まえた目指すべきまちづくりの推進のため、各施策を再編・追加し、倉敷市の強みを生かす“戦略”計画

基本目標・基本的方向

基本施策・重要業績評価指標 (KPI)

→ 事業  
→ 事業  
→ 事業

まちづくり  
指標の見直し  
も含め検討

倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略

## 施策の検討・実行に当たっての方針

### 倉敷市ならではの強み(個性と魅力)を最大に生かす

水島コンビナートを中心とした最先端技術を有する企業の集積  
・倉敷市製造品出荷額等全国4位(平成25年工業統計調査値)  
国際バルク戦略港湾に指定された水島港  
・平成23年5月に全国で唯一、穀物と鉄鉱石の2品目において選定繊維産業を代表とするものづくり  
・国産ジーンズ発祥の地・帆布生産量全国1位・学生服等  
広域交通網の結節点  
年間1,000万人を超える集客力を持つ2つの大型商業施設の立地

豊かな農水産物  
・加温マスクット(生産量全国1位)・白桃・スイートピー(出荷量全国2位)・金時人参等  
伝統的な町並みをはじめとした多くの観光資源(平成25年観光客数633万人)  
・平成24年にアジア都市景観大賞を受賞した倉観美観地区  
・下津井、玉島町並み保存地区・瀬戸内海国立公園等  
わが国有数の医療機関の立地(一般病床数1000超の総合病院2施設)  
11校の高等教育機関  
全国に先駆けた連携中枢都市圏の形成(平成27年3月27日連携協約締結)

人口減少の抑制に留めることなく、世代を超えて、倉敷で暮らし続けたい、暮らしてみたいと言われる取組を行う

## 今後の基本目標と基本的方向

### 新たな取組への挑戦と既存の取組の更なるブラッシュアップ

#### 働く場を創る倉敷

(基本的方向)

- 地域資源を生かした産業の競争力強化
- 魅力ある雇用の場の創出
- 地元就職の促進
- 女性・高齢者・障がいのある方の就業機会の拡大
- 地域活性化のためのICT活用

(数値目標案)

個人市民税額

#### ひとを呼びこむ倉敷

(基本的方向)

- 倉敷への移住と定住の促進
- 豊かな自然と伝統文化の継承
- 誘客拡大のための観光力強化
- 倉敷の個性と魅力の情報発信力強化
- 政府関係機関及び企業の誘致促進
- 地元大学の活性化

(数値目標案)

転入者数・転出者数

#### 結婚・出産・子育ての希望をかなえる倉敷

(基本的方向)

- 妊娠・出産・子育ての支援と安心確保
- 地域や職場における子育て支援
- 希望する人への結婚支援
- ワーク・ライフ・バランスの推進
- 教育環境の充実

(数値目標案)

合計特殊出生率

#### 安心な暮らしを守り、地域をつなぐ倉敷

(基本的方向)

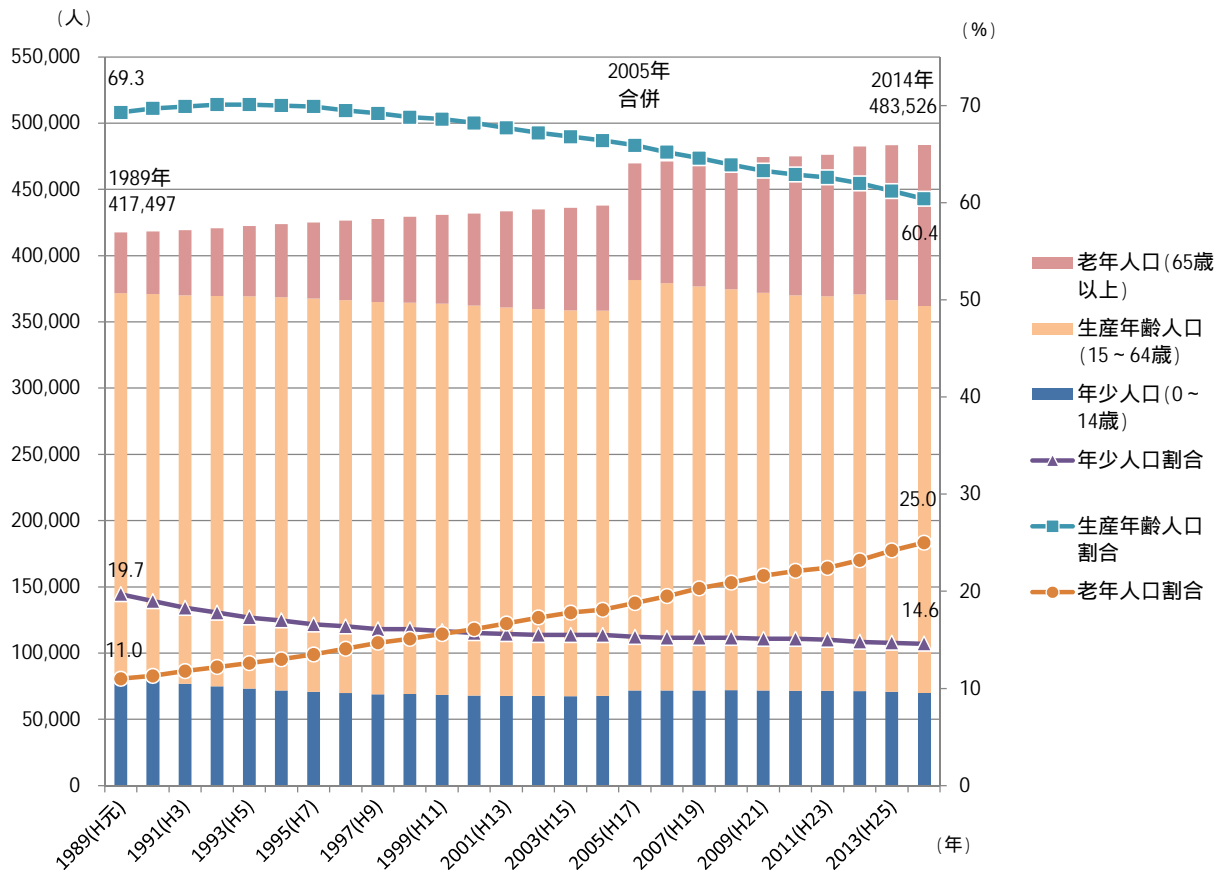
- 健康寿命の延伸
- コンパクトシティの推進と既存ストックのマネジメント強化
- 高梁川流域連携中枢都市圏構想の推進
- 健全で恵み豊かな環境の維持
- 市民や地域と連携した防災力強化
- 地域を誇りに思い、地域を支えたいと思う人材育成

(数値目標案)

人口ビジョンにおける中期目標値

図表1

倉敷市の人口推移



(出典)倉敷市統計書より(各年9月末)

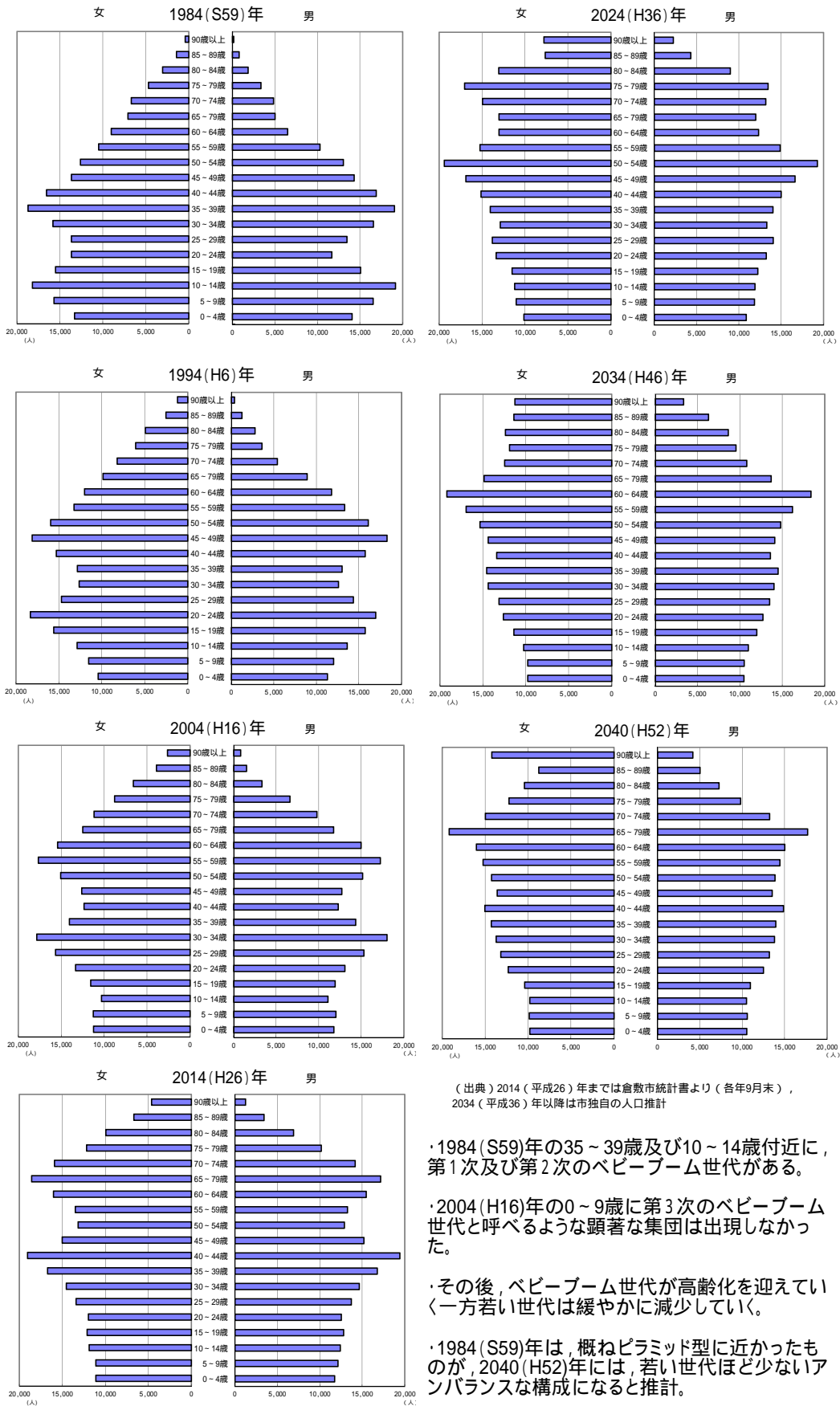
・1989(平成元)年の417,497人から,2014(平成26)年の483,526人へ66,029人15.8%増加。

・人口構成では,老年人口が11.0%から25.0%へ14.0ポイント増加。

それに対し,年少人口は19.7%から14.6%へ5.1ポイント,生産年齢人口が69.3%から60.4%へ8.9ポイント減少。

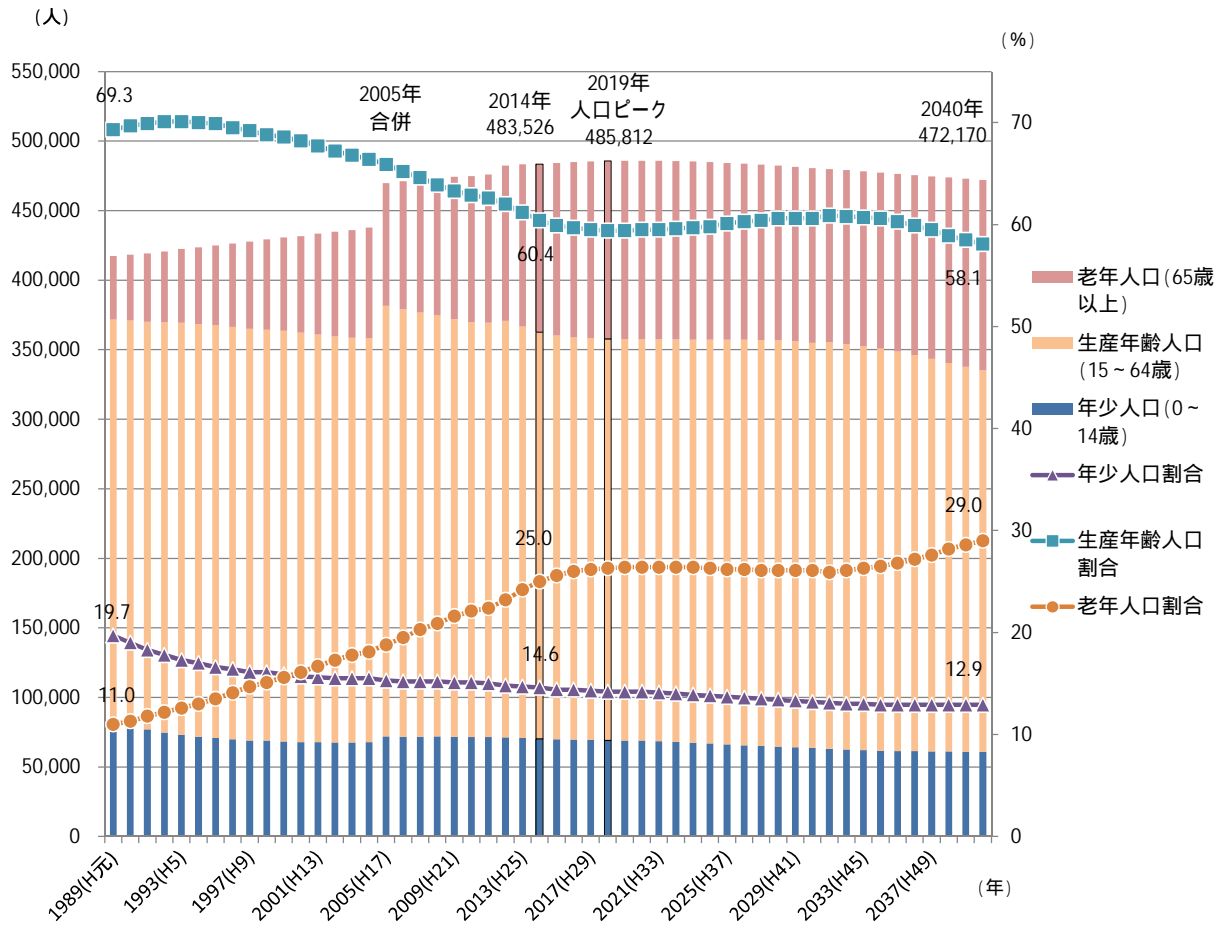
図表2

倉敷市の人口ピラミッドの推移と見通し



図表3

倉敷市の人口推移と見通し



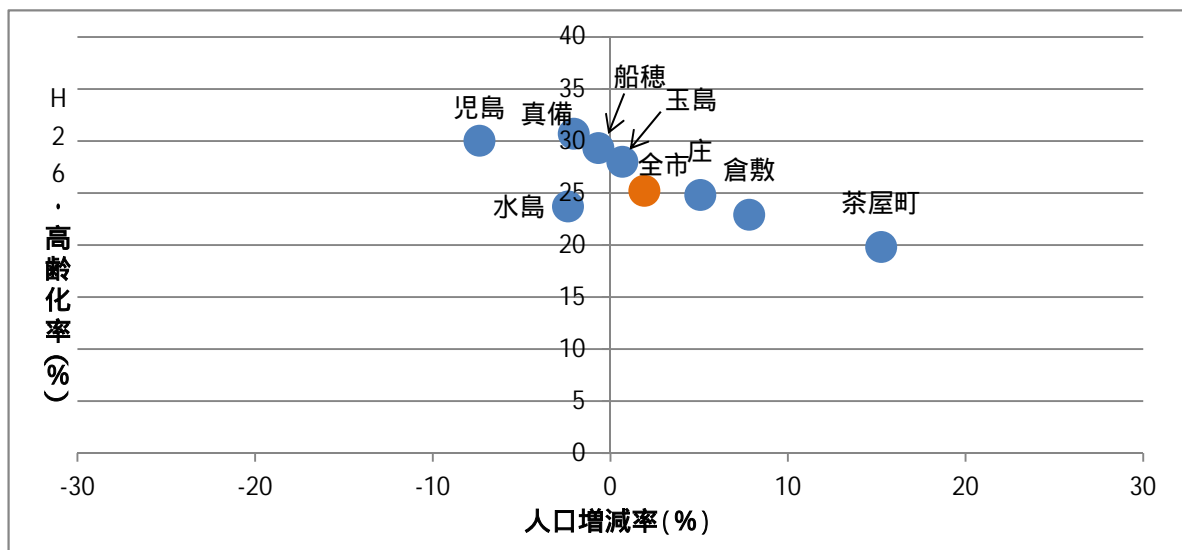
(出典) 2014(平成26)年までは倉敷市統計書より(各年9月末),  
2015(平成27)年以降は市独自の人口推計

・2019(平成31)年の485,812人をピークに、減少に転じ、  
2040(平成52)年には472,170人と推計。  
対ピーク時に対して、2.8%減。

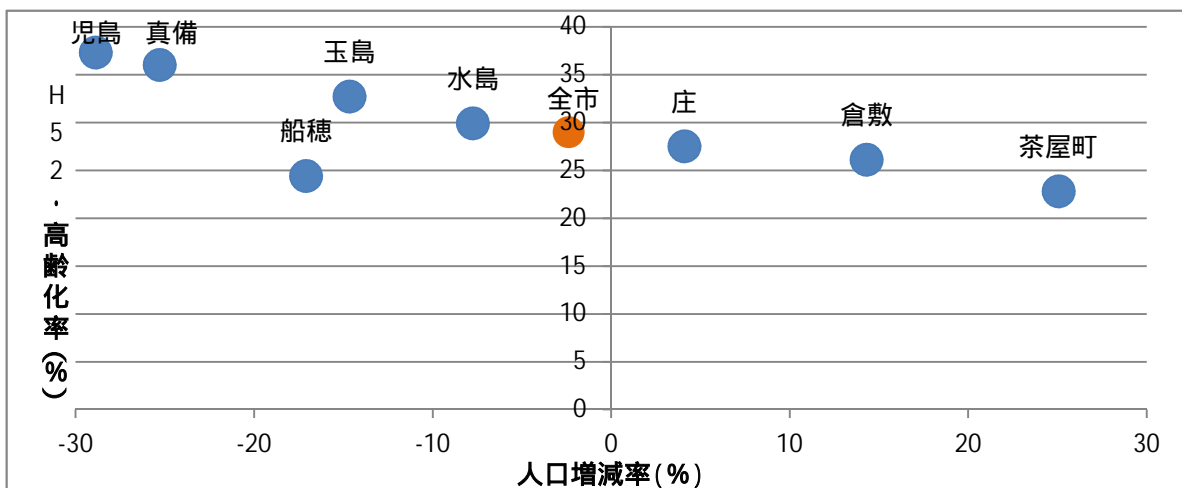
・人口構成では、老年人口が11.0%から29.0%へ18.0ポイント増加。  
それに対し、年少人口は19.7%から12.9%へ6.8ポイント、  
生産年齢人口が69.3%から58.1%へ11.2ポイント減少。

図表4

地区別人口増減・高齢化率の推移 (H17 - H26)



地区別人口増減・高齢化率の見通し (H27 - H52)



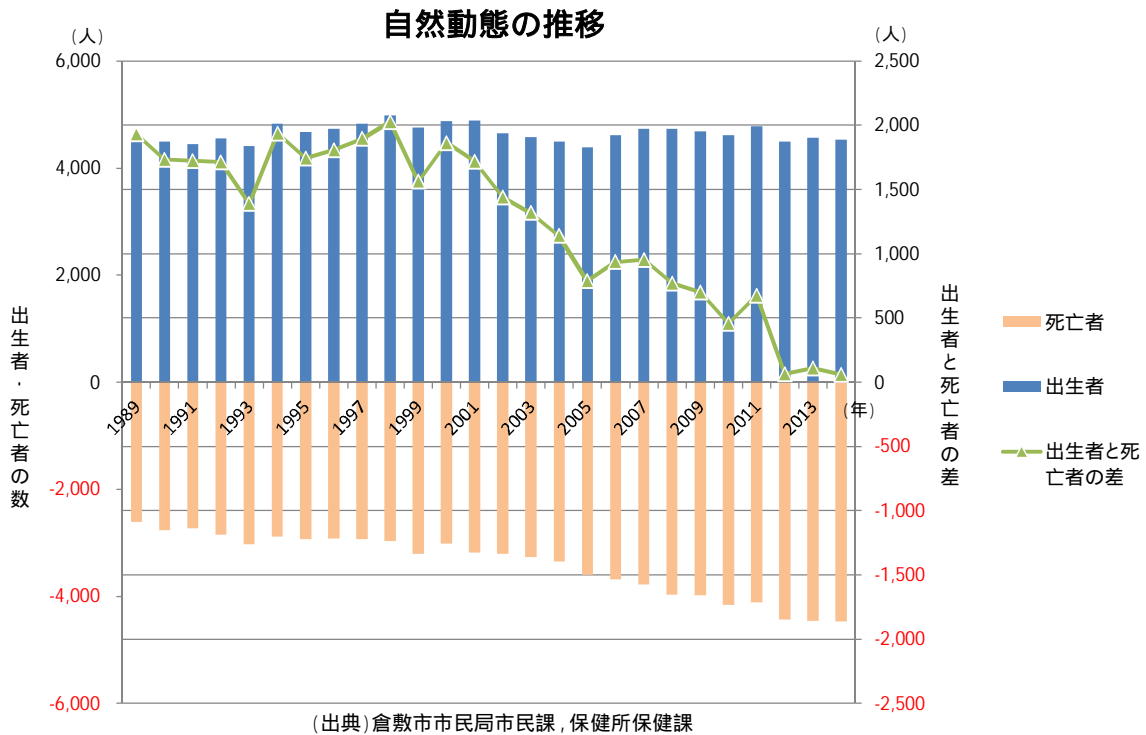
(出典) 倉敷市市民局市民課「住民基本台帳」, H52 (2040) 年の推計値は, 市独自の人口推計

・H26までは, 茶屋町・倉敷・庄・玉島地区で人口が増加。H26の高齢化率は, 真備地区が30.7%で最も高く, 茶屋町地区が19.8%で最も低い。

・H27からH52の見通しでは, 茶屋町・倉敷・庄地区で人口が増加。H52の高齢化率見込は, 児島地区が37.3%と最も高く, 次いで真備地区となっている。

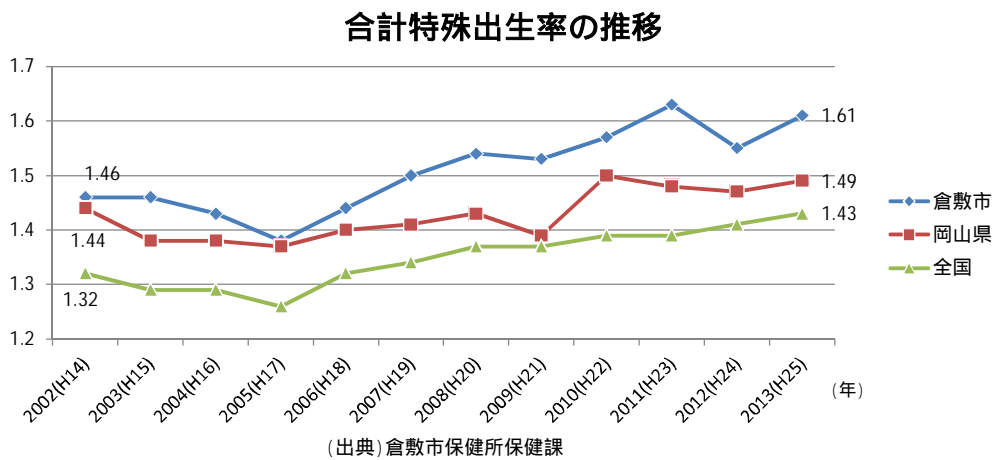
・船穂地区を除く各地区は, 高齢化率が増加しているのに対し, 船穂地区は4.9%減少する見込み。

図表5



- ・自然増の状態が長らく続いていたが、急速に低下している。
- ・出生数は横ばいだが、高齢者の実数が増えたことにより、死亡者が増加。

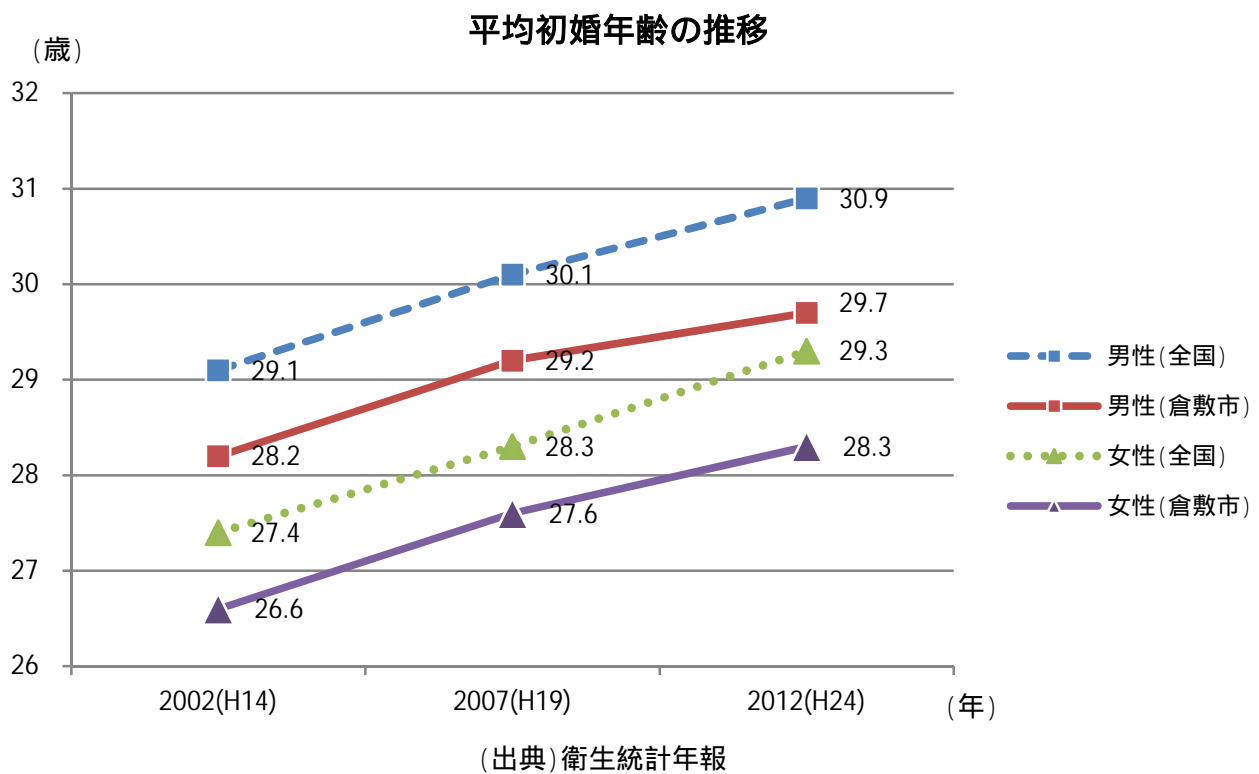
図表6



- ・2006(平成18)年より上昇に転じ、国及び県平均より高い。



図表7



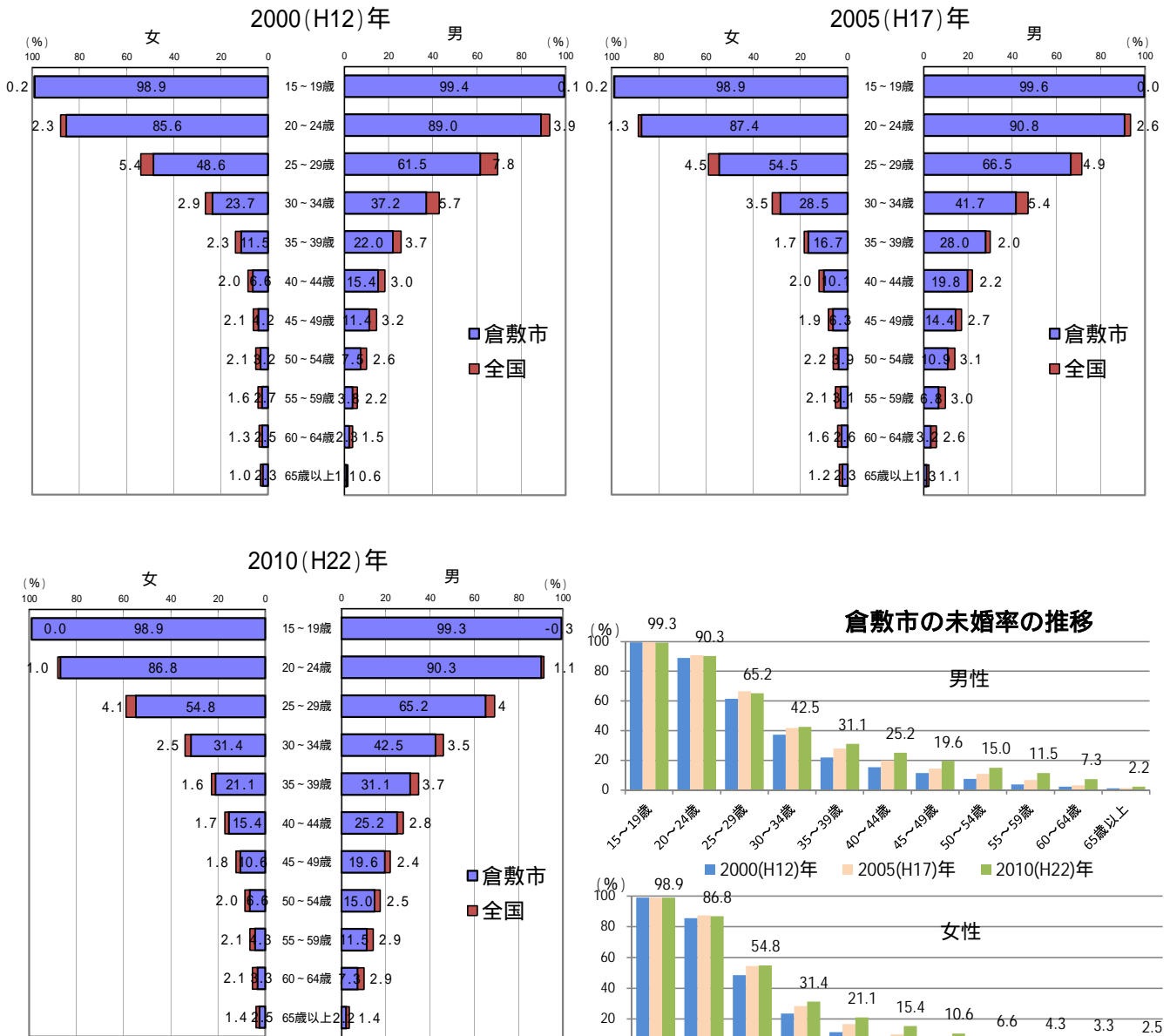
・男性・女性ともに倉敷市は、全国平均に比べて早い。

・女性よりも男性の方が高い。

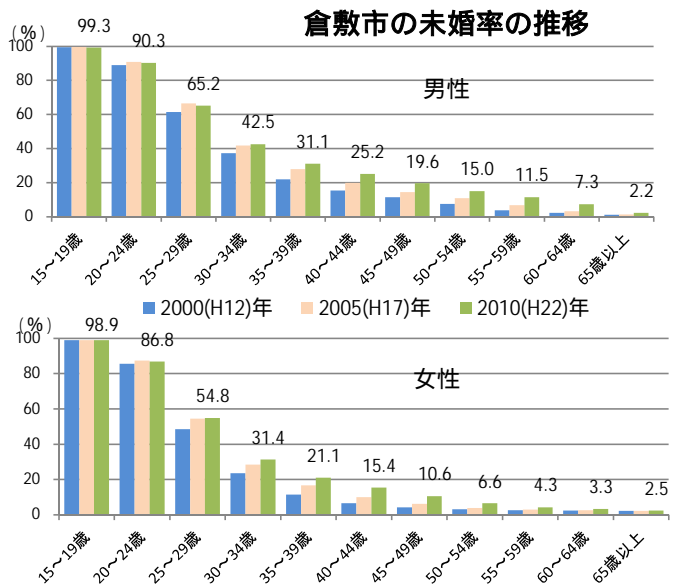
・2002(平成14)年と2012(平成24)年の10年間で、平均初婚年齢が全国平均で1.8～1.9歳高くなり、倉敷市も同様に1.5～1.7歳高くなっており、晩婚化が進んでいる。

図表8

未婚率の推移(15歳以上)



(出典) 国勢調査報告書



(出典) 国勢調査報告書

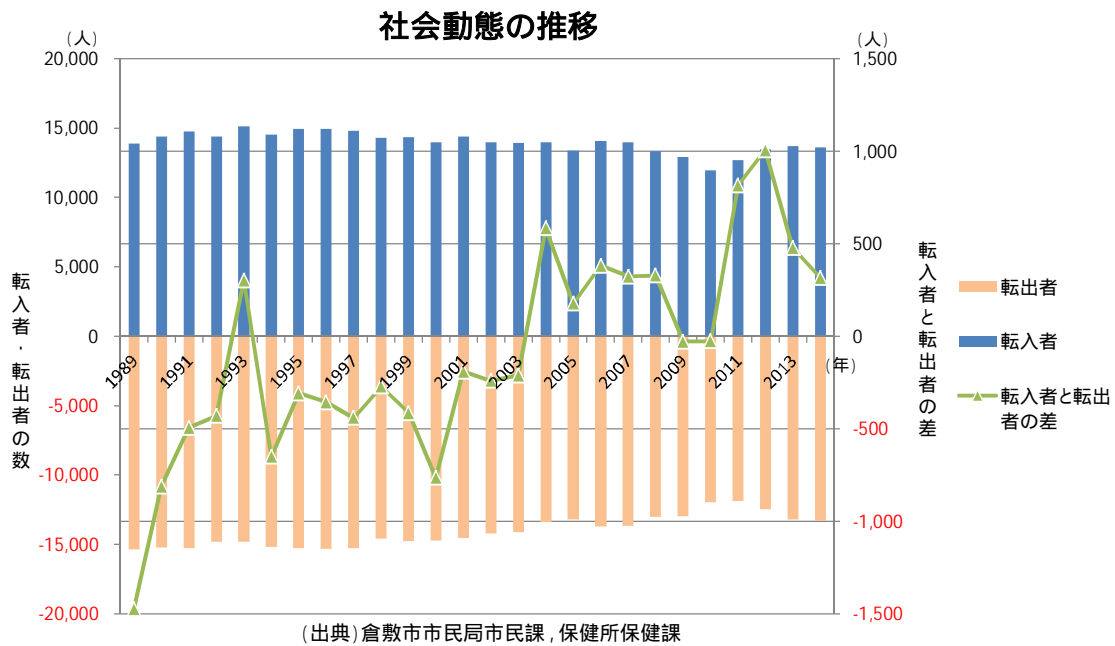
・倉敷市の未婚率は、男性女性とも概ね各年齢階層で全国平均を下回っている。

・同じ年齢階層ならば、男性のほうが未婚率が高く、男性女性とも年々未婚率が上昇している。

・25～29歳では、男性で60%、女性で50%を超えている。

・30歳代では、男性で概ね40%、女性で20%が未婚となっている。

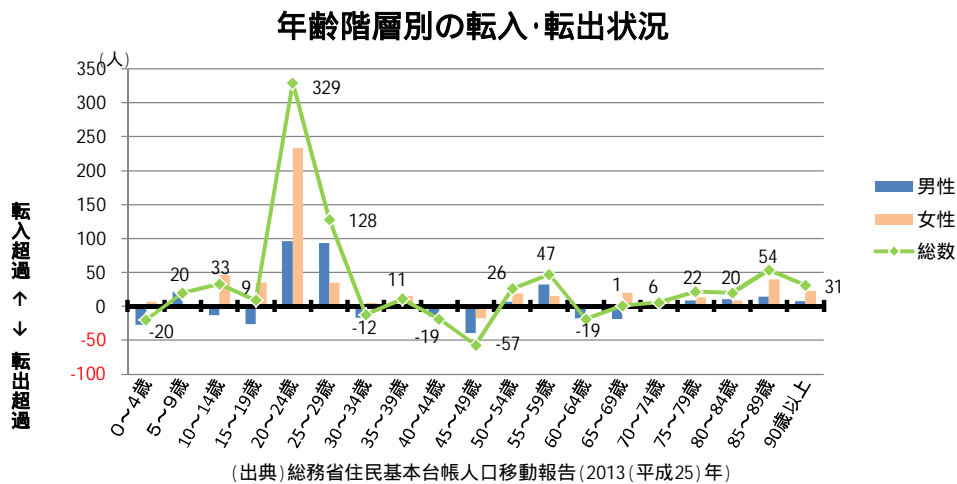
図表9



・転出超過の状態が続いていたが、2004(平成16)年に転入超過となった。

・しかし、ここ2年は転入超過数が減少し、予断を許さない状態。

図表10

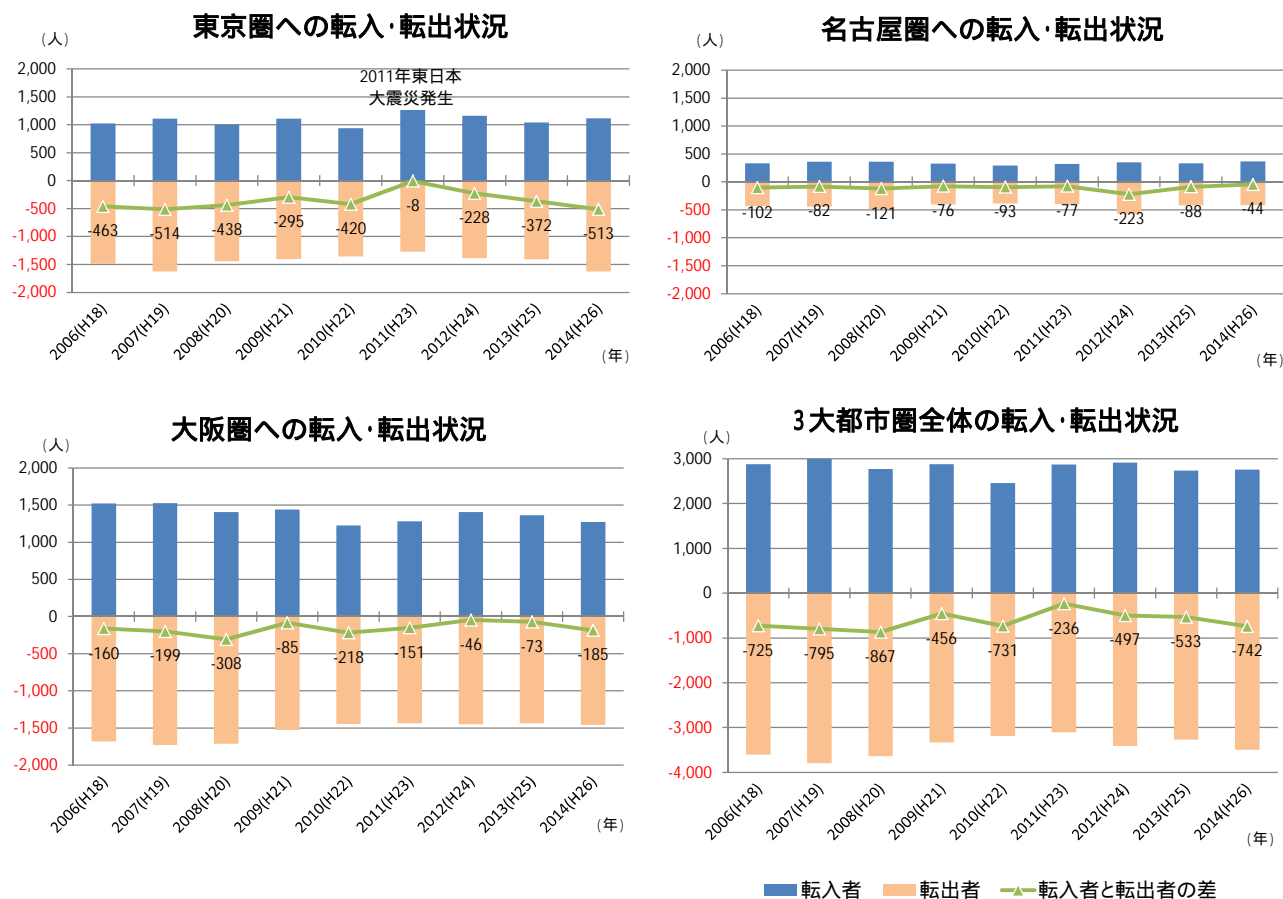


・20～29歳で転入超過となっており、就職などで本市へ転入している可能性が強い。

・15～19歳の大学進学・就職時では、男性は転出超過となり市外へ進学・就職している可能性が強い。  
女性も、逆に転入超過となっている。

図表11

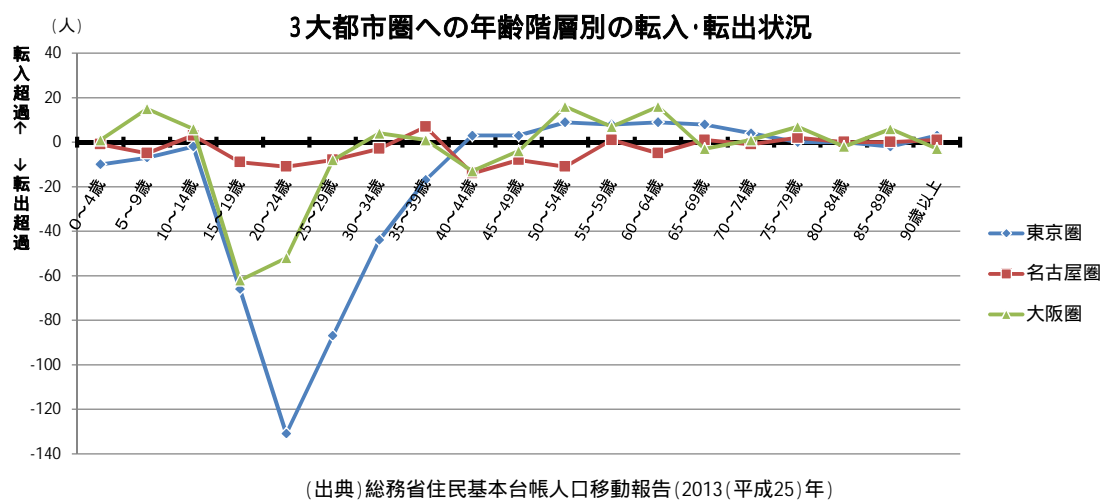
3大都市圏への転入・転出状況



・3大都市圏に対して、東日本大震災のあった2011(平成23)年を除いて、毎年400～800人規模で転出超過。

・とりわけ東京圏への転出超過が多い。

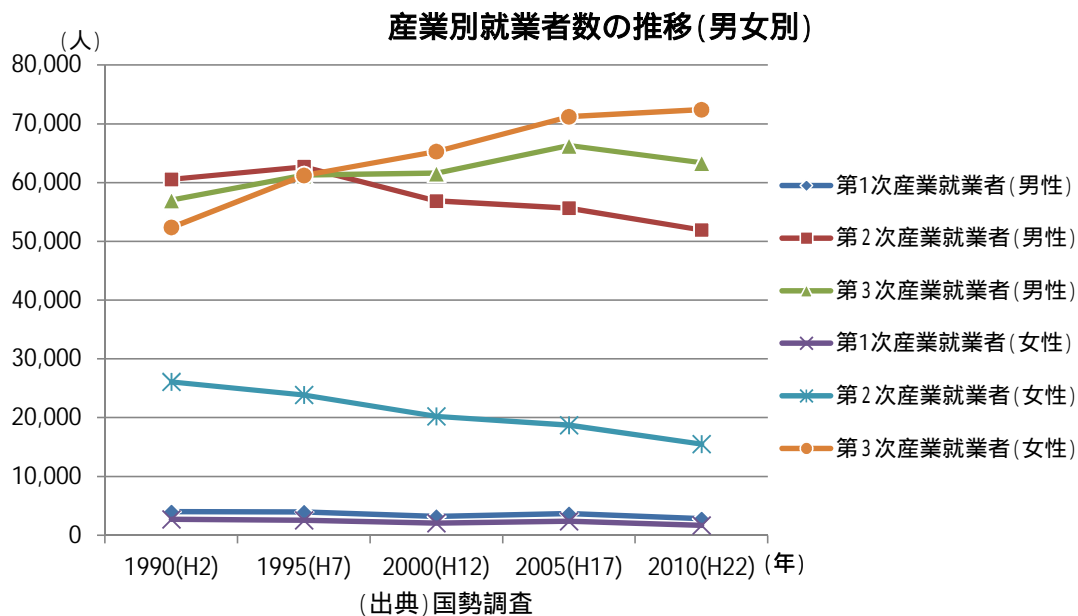
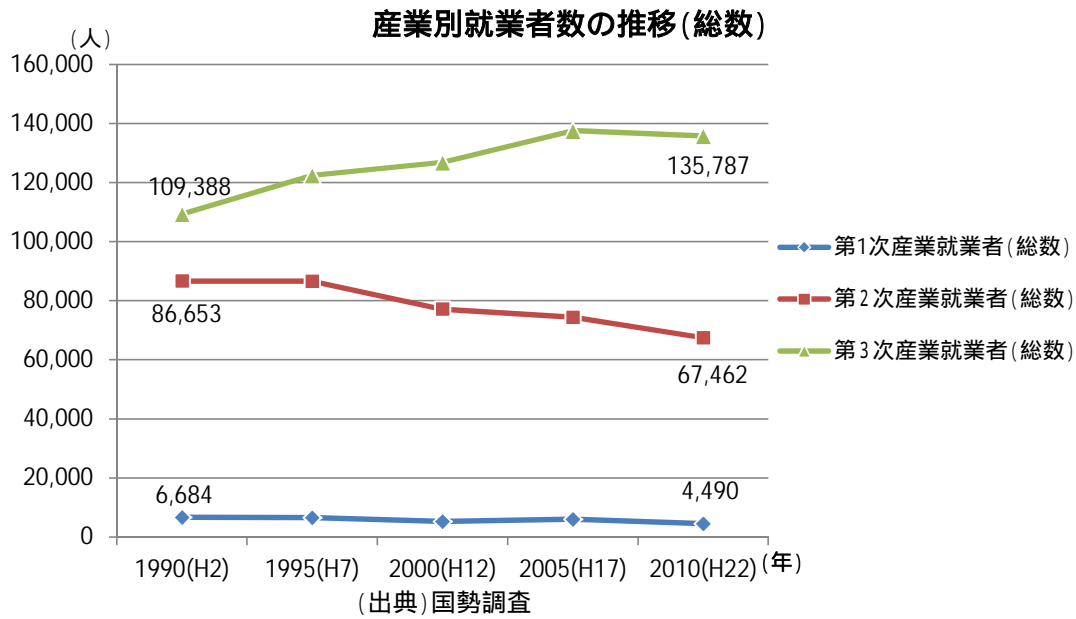
図表12



・3大都市圏全体では、15～29歳で転出超過が多く、進学や就職時に転出している可能性が強い。

・東京圏では、15～39歳のより幅広い年齢で転出超過。

図表13



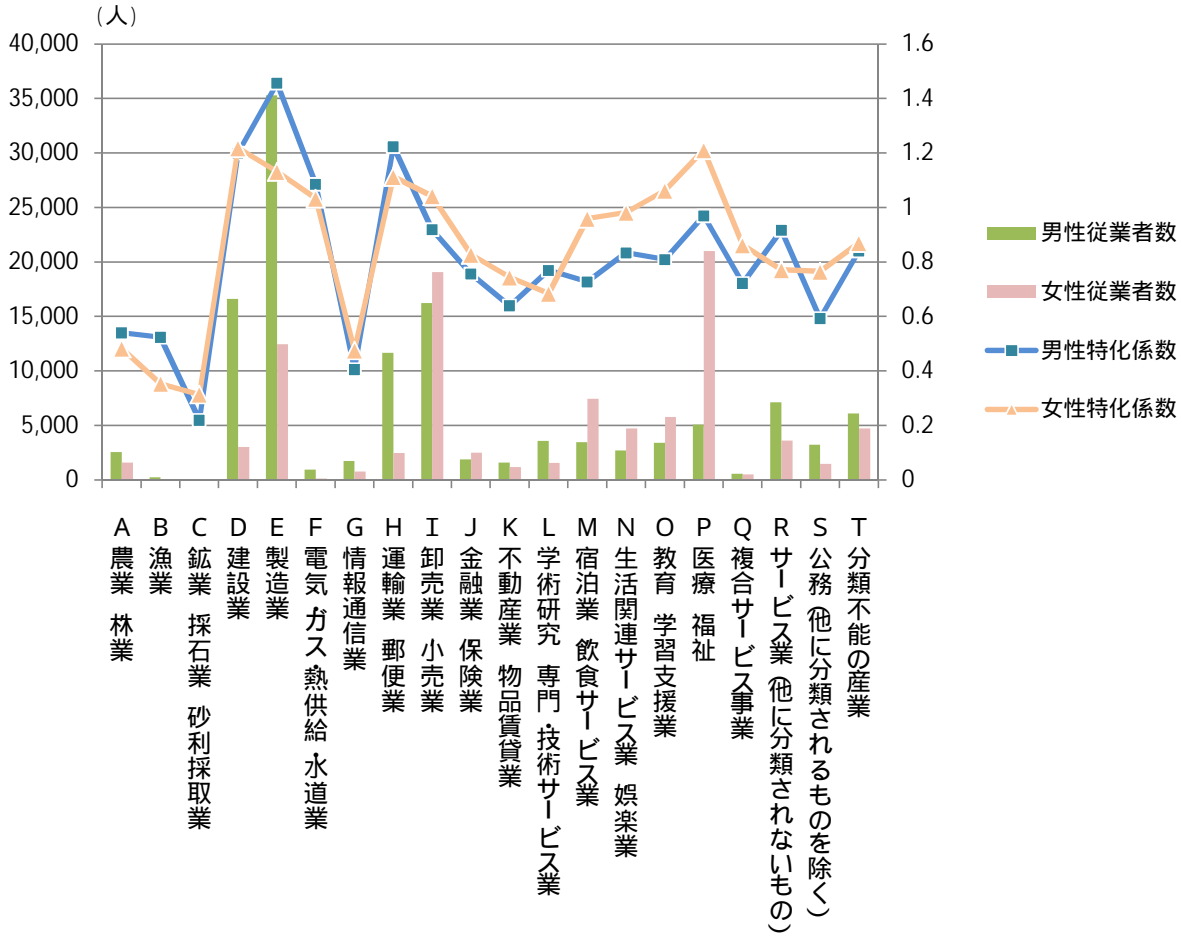
・1990(平成2)年と2010(平成22)年の20年間の比較で第2次産業就業者は22%減少し、第3次産業就業者が24%増加している。

・男性の場合、第3次産業就業者が11%増加し、第2次産業就業者が14%減少している。

・女性の場合、第3次産業就業者が38%増加し、第2次産業就業者が40%減少している。

図表14

産業(大分類), 男女別就業者数



(出典) 国勢調査(2010(平成22)年)

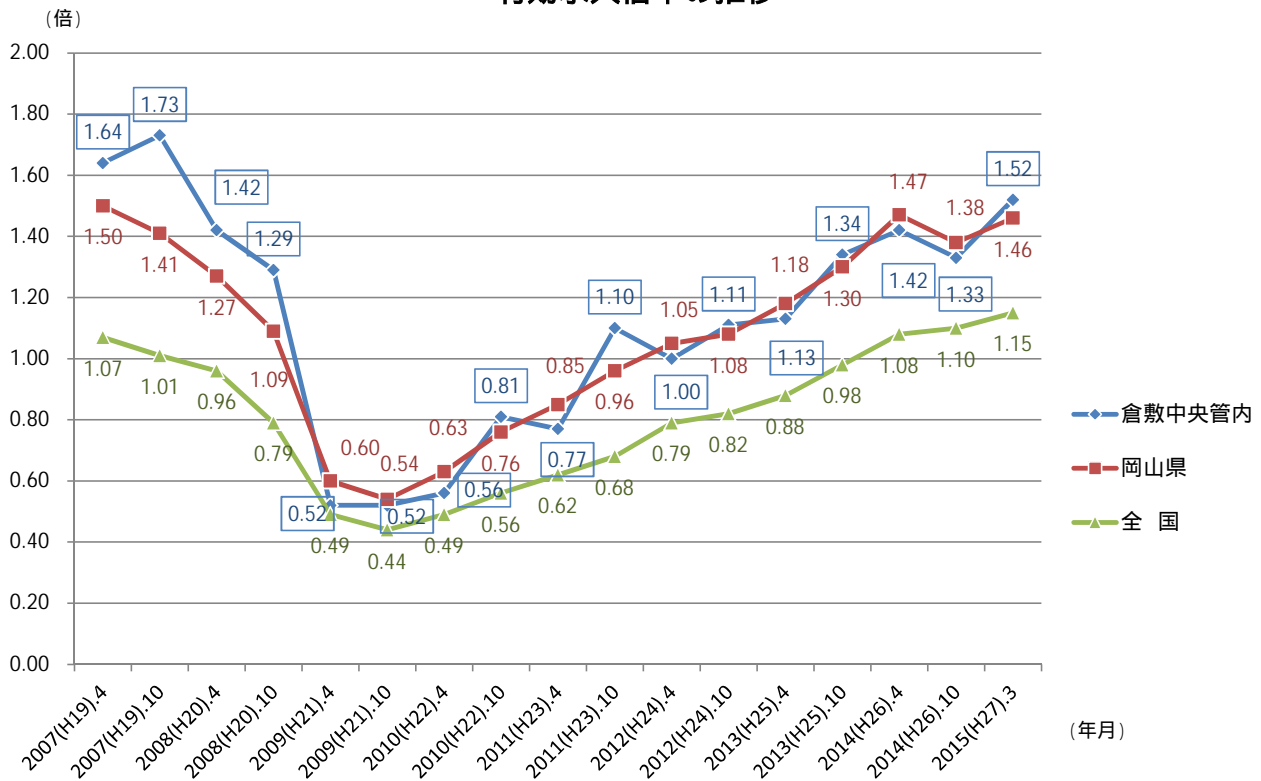
・男性は製造業, 建設業, 卸売業・小売業, 運輸業・郵便業の順に多い。

・女性は医療・福祉, 卸売業・小売業, 製造業, 宿泊業・飲食サービス業の順に多い。

・全国の従業者構成と比べて倉敷市では、男性は、製造業, 建設業, 運輸業・郵便業 女性は、医療・福祉, 建設業 の割合が高い。

図表15

有効求人倍率の推移



(出典)岡山労働局雇用労働統計

- ・岡山県及び倉敷中央管内の有効求人倍率は全国平均より高い。
- ・2009(平成21)10月から上昇傾向。